

農業への理解を深めるため、子どもたちがさまざまな農作業を継続体験！
「イオン チアーズクラブ ファーマーズプログラム」を開催
北海道三笠農場で農業の仕組みや環境の大切さを学びます

イオン北海道株式会社（以下、イオン北海道）は7月23日（日）、イオンアグリ創造株式会社（以下、イオンアグリ創造）が運営する北海道三笠農場にて、「イオン チアーズクラブ ファーマーズプログラム」を開催いたします。

「イオン チアーズクラブ ファーマーズプログラム」は、収穫や苗の植え付けなどの一側面に限らず、畑の管理なども含めた農作業を体験することで、農業についての理解を深めることを目的に実施します。加えて、植物の仕組みや、農業と環境との関わりなどについても学ぶ機会を設け、3～4回のカリキュラムで開催します。これまで2016年に東海エリアの「三重いなべ農場」、近畿エリアの「兵庫三木里協農場」にて実施され、北海道では今年が初めての開催となります。

第1回目の7月23日（日）は、「イオン江別店」「イオン岩見沢店」「イオンスーパーセンター三笠店（以下、イオンS u C三笠店）」のイオンチアーズクラブ約30名が参加し、「植物の生理と仕組みについて」をテーマに、ブロッコリー畑でブロッコリーの育て方や栽培方法を学んで定植をし、また、三笠市が推進する“生ごみ堆肥化による地域循環システム”についても学びます。以降は、9月～11月にかけて、ブロッコリー畑の継続的管理や三笠市の堆肥づくり工場「F Aリサイクルセンター」を見学し、最後に収穫体験を行います。

イオン北海道とイオンアグリ創造は、次代を担う子どもたちが健やかに成長し、笑顔があふれる未来にするためにこれからも学習機会の提供、青少年の健全な育成を支援する活動を継続しておこなってまいります。



<「イオン チアーズクラブ」の子どもたちによる農作物収穫体験（イメージ）>

【北海道三笠農場「イオン チアーズクラブ ファーマーズプログラム」の概要について】

実施日：第1回	7月23日（日）	植物・ブロッコリーについての学習、定植など
第2回	9月9日（土） または10日（日）	イオンSuC三笠店で回収した食品残さを使用した 堆肥づくり工場（FAリサイクルセンター）の見学、 畑での作業など
第3回	10月または11月 ※予定	ブロッコリーの収穫・試食

<7月23日（日）実施について>

10:00～ はじまりの会（プログラム概要の説明、ブロッコリーの学習）

10:30～ ブロッコリー畑へ移動

10:40～ ブロッコリーの定植

11:20～ 写真撮影

11:45～ おわりの会 ※12:00終了予定

場 所：北海道三笠農場（住所：三笠市唐松青山町41）

参 加 者：江別・岩見沢・SuC三笠イオンチアーズクラブ合計約30名（コーディネーター含む）
イオンアグリ創造株式会社 代表取締役社長 福永 庸明

対象農作物：ブロッコリー

備 考：北海道三笠農場では、三笠市が推進する環境への取組み「生ごみ堆肥化による地域循環システム」に対応しています。イオンSuC三笠店の食品残さや家庭から出た生ごみを市内のリサイクルセンターが集めて有機堆肥にし、その堆肥を使用して北海道三笠農場で栽培した農作物をイオンSuC三笠店に供給し、お客さまに提供する循環型の農業を実践しています。今回栽培する農作物は、この有機堆肥を使用しています。

【参考】

◆イオンチアーズクラブについて

公益財団法人イオンワンパーセントクラブの支援により、小学校1年生から中学校3年生までの子どもたちを対象に、環境に関する学習や体験の場を提供しています。地域子どもたちが月に1回程度集まり、イオン各店舗の従業員のサポートのもと、環境をテーマにさまざまな活動に取り組んでいます。2017年度のテーマは「ゴミ・リサイクル」です。

現在、全国約450クラブ、約7,800名が、北海道では40クラブ、約600名が参加しています。

◆イオンアグリ創造「北海道三笠農場」

「北海道三笠農場」は、イオンアグリ創造が運営する農場では最大級の耕作面積（31ヘクタール）。栽培品目は、ほうれん草、こまつな、ブロッコリー、えだまめ、とうもろこし、きゅうり、ミニトマト、三笠メロンなどを生産。北海道の「イオン」「イオンスーパーセンター」の40店舗※でお取り扱いしています。イオンアグリ創造は、生産から販売まで一貫してイオングループ内で管理することで、お客さまニーズに応える安全で新鮮度な食材を合理的価格で供給しています。

※出荷数量により、取扱い店舗数は変動します。

【本件に関するお問い合わせ先】

イオン北海道(株) 総務部広報 佐藤・山崎 電話：011-865-9111